

UIFA JAPON NEWSLETTER



No. 108 Dec. 25, 2017

Union Internationale des Femmes Architectes Japon

国際女性建築家会議 日本支部

■主な内容

- ・岩泉町だれでもフォトグラファチームが第12回日本都市計画家協会賞・優秀まちづくり賞を受賞
- ・NPOが遭遇した、豊洲地区運河ルネサンス活動の紆余曲折
- ・この指とまれ豊洲！に参加しました
- ・防災カフェ報告
- ・被災地通信（18）災害王国日本、どうしよう
- ・法末モバイルキッチン in 神楽坂



2017年9月、実現した豊洲・東電堀の利用（写真：須永倭子）

岩泉町だれでもフォトグラファチームが第12回日本都市計画家協会賞・優秀まちづくり賞を受賞 写真家 橋本 照嵩
Iwaizumi Photographers Team Wins the Excellence Town Planning Award Photographer HASHIMOTO Shoko

2017年10月8日に、横浜市立大学で行われた「全国まちづくり会議2017in横浜」において、岩泉町だれでもフォトグラファチームが、「第12回日本都市計画家協会賞・優秀まちづくり賞」を受賞しました。たいへん、おめでとうございます。



こんな写真が魅力と語る橋本氏
(写真：松川淳子)

ユイファ・ジャポンの稲垣会長さんが操作するスクリーン画像をバックに、活動報告をする織笠さんが適確に感じよく話されるのを拝聴していて、その肉声の響きから、私は「だれフォト」の皆さんおひとりおひとりのお顔を思い浮かべていました。

仮設集会所の合評会に入っていらっしゃる時の様子がお一人お一人特徴がありました。教室に入るときの小学生のようにうれしそうにはにかんだ様子の人。今晚はどんな人が集まっているのかナと見回す人。腕力を振って入ってくる人。職業をちょっぴり感じさせる人。子供のときからこの感じを持って大人になった人。おだやかにだまりこくった感じの人。皆さん、「集まり」をたのしく



岩泉町だれでもフォトグラファチームの織笠さんがプレゼンテーションを行いました。
(写真左：平野正秀 右：森田美紀)

してくれる人たちでした。この方たちとなら何かやれる予感!! ユイファ・ジャポンの女性パワーと共に!!

2011年12月の初会合で、ちょっとしたアドバイスでカメラを持つ姿勢があっという間によくなりました。1. 脇を軽くしめる。2. 足を肩幅に開き膝を柔らかく。3. シャッターを下ろすときは一歩前が出る（川岸や崖では要注意。そのときは気持ちで）。この3ポイントをトイレに貼って自分のものにされた人。またご夫婦で撮り合いっこして、フットワークを身につけたお二人。

5年間で通算約3000点にのぼるスクリーン上映合評会、実はそれは私が皆さんから合評されていることでもありました。そして2年目から、3冊の素晴らしい「明日の岩泉へ 東日本大震災 岩泉町復興の記録」の出版。そして小本駅構内の壁に写真作品を展示。6年目からは自主撮影、そして同構内に展示!!

これからも岩泉の風土と生活や暮らしを撮影し続けてください。展示し続けてください。このようなことは世界でどこもやってはいないでしょう。素晴らしいことです。私も1年に1度はお邪魔して、また合評会をやりたいと思っています。実は、岩洞湖のあのソフトクリームも恋しいのであります?!

お知らせ

松川淳子さんが萌文社より『水辺のまち 江東を旅する』を出版。また、第29回住生活月間功労者として、国土交通大臣表彰を受けました。おめでとうございます。詳しくは次号にて。



特集：豊洲について

市場やオリンピックなど、いろいろと話題になる豊洲。まずは行ってみようと「この指とまれ！」を長年水辺の活動に関わってきた須永さんが企画。今号では須永さんのこれまでの活動をまとめていただいた。また、今回のこの指とまれについての感想を北本さんをお願いした。(薄井)

NPO が遭遇した、豊洲地区運河ルネサンス活動の紆余曲折
Nonprofit Koto Waterside Tackles Hurdles in Toyosu-area Canal Renaissance Project

特定非営利活動法人江東区の水辺に親しむ会 理事長 須永 侑子
Chairperson SUNAGA Yoshiko



2007年11月、仮設足場と台船を使った船着場。地域の方々の乗船体験が、身近な水辺の認識を大きく変えて協議会立ち上げの後押しとなった。



2010年3月、護岸が整備され、ポンツーン型の船着場も設置。社会実験で停泊船をカフェとしたところ、キャナリーゼのたまり場となった。

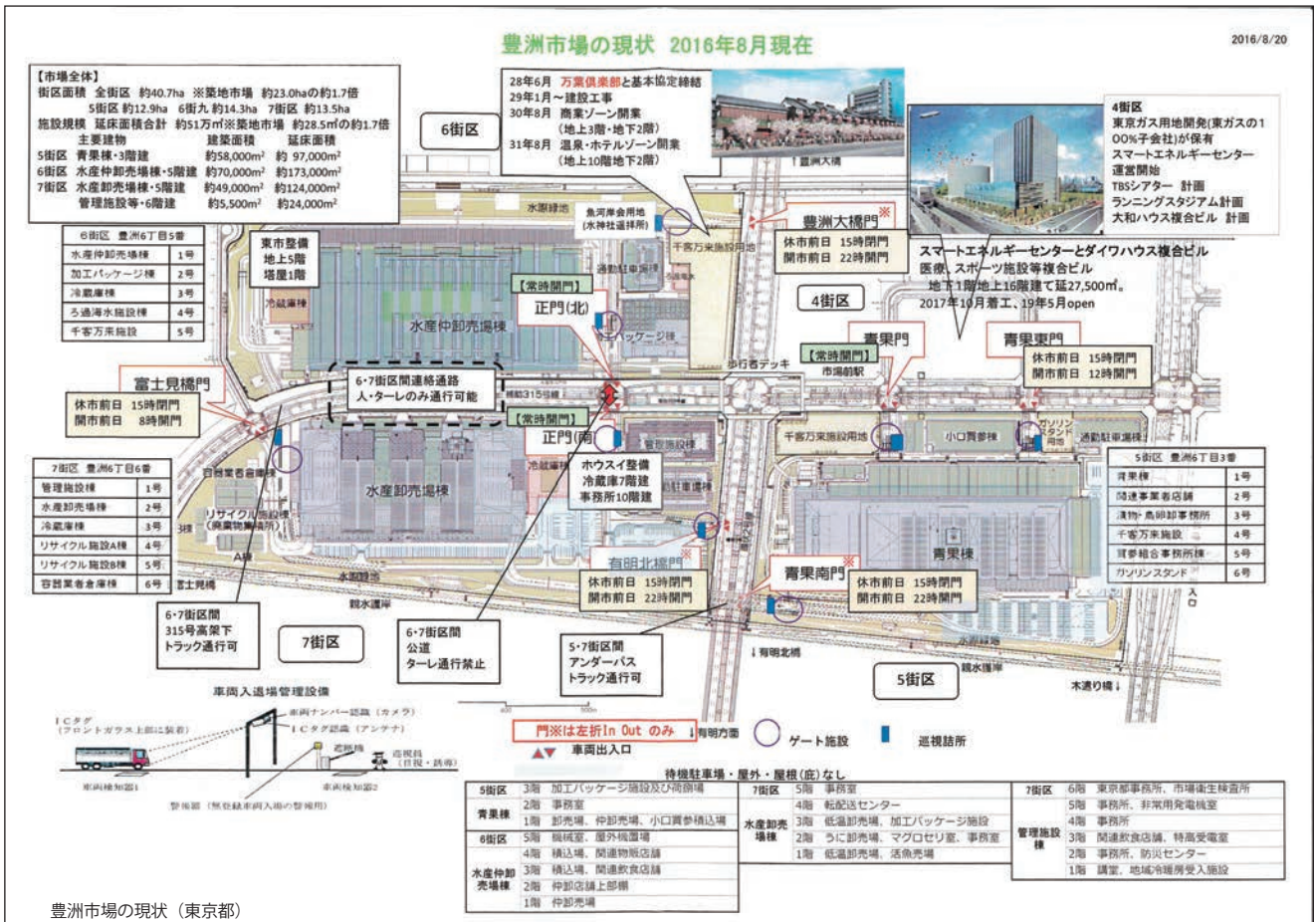
2007年から豊洲の運河ルネサンス協議会に準備会から参加し、今年で10年を迎えた。協議会の目的は、運河や河川を再び活用することで、街の賑わいをつくることだった。対象地域は当初豊洲1丁目から5丁目までで、構成メンバーはIHIなどの企業、地元の商店、町会、保育園から大学、舟運業者、NPOなどである。

そして今年、豊洲6丁目目の東電堀水面もルネサンスエリアに加わった。今後豊洲埠頭豊洲6丁目の地域もエリアに組み入れられることが予想される。豊洲埠頭は東京都の豊洲市場、市場を囲むグリーンベルト（ぐるり公園）、地元企業東京ガスや東電などの暫定利用地、超高層マンションなどの居住地域で構成されている。

2016年8月末、市場地下の盛土の不備が発覚した事により市場移転が延期となった。それと共に東京都から江東区に移管されるはずの、周囲の公園や水面の使用も延期となった。

2017年7月22日の「この指とまれ」では、この殺風景な状態をUIFAの会員に見てもらった。陸と海からの見学で、「仏作って魂入れず」の状態とはどういうものかということを実感されたものと思う。同時に環境という器に地域の人が係わる必要性も、理解される良い機会となったと考えている。

この間、協議会のメンバーや、ここで事業を行う日の丸白



動車興業は、それぞれに動いていた。区役所に通い、完成した公園の一部だけでも開放し、利用させて欲しいと訴えた。ルネサンス協議会は、毎年9月に「豊洲まつり」を開催するのを恒例としてきたが、2017年は東電堀水面を含む一帯で開催したいとの思いも強くあった。願いがかない、9月30日のまつりは東電堀周辺で行った。水彩都市フォーラム2016のチラシに描かれた風景そのものが実現した。(巻頭写真)

豊洲市場の移転は、2018年10月に決まるようである。この先1年でまたどんなアクシデントが起きるのか、まだ先の見通せない状況である。

協議会のメンバーと実施した水彩都市フォーラム2016。テーマは「今!! 豊洲から発信する江東区の水辺の魅力」だった。チラシの表紙は、賑わう東電堀をイメージした。



豊洲のクルージングコース 当日は築地市場まで足を伸ばした

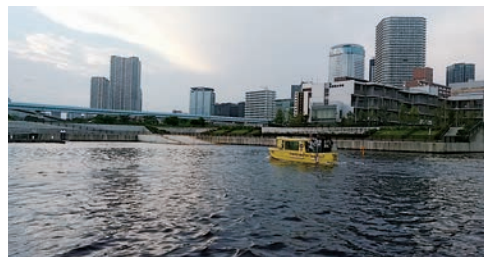
この指とまれ豊洲！に参加しました 北本 美江子 Join Us To Visit Toyosu KITAMOTO Mieko

7月22日は真夏の陽射しでした。東京臨海部に行く機会は少ないので、水辺の活動も気になって行ってみました。豊洲といえばタワーマンションと高層オフィスのイメージですが、芝浦工業大学もあって港区芝浦から2006年に移転したそうです。水辺に抜けられる斬新なデザインは周辺に溶け込んでいます。

大学の志村秀明教授の研究室が運河ルネサンス協議会の事務局を担っていて、まちづくり活動や豊洲の歴史について、興味深いご説明をいただきました。大学内部は廊下を歩くと、天井にケーブルがいっぱい露出していて、いかにも先端の工業大学です。協議会の運動の成果として水辺に遊歩道ができ、船が発着する棧橋への行き来も大学が管理しているとのことでした。

レクチャーの後は運河沿いを水上タクシーから視察する企画、陽が陰る時刻に乗船です。2台に分かれて豊洲大橋をくぐり、晴海や月島、築地市場の裏側も見て、停泊中の帆船日本丸を見上げ、オリンピック施設工事現場、東雲運河を通過してほぼ完成済みの豊洲市場、東電堀の水陸両用車の入出水施設も確認しました。

陸に戻って再び東電堀のレストラン・オンザカナルに向かい、オーナーの地元商友会会長さんと食事をしながら話を伺えました。豊洲は昭和初期、国際港用に水深不足を解消するため、浚渫した土を埋め立てでき、戦後は6丁目の豊洲埠頭部分が増え、住宅難対策に住宅や商店もできたとのこと、豊洲の歴史は「へえ」の連続でした。



豊洲・東電堀に行く水上タクシー

(写真：北本美江子)

防災カフェ報告

Report on the Café at Disaster Prevention Event

HASHIMOTO Yukari

橋本 ゆかり

9月10日今年も首都防災ウィーク(東京都横網町公園)に参加しました。UIFAの参加は今回で4回目です。7月



一服に笑顔が広がる

(写真：薄井温子)

から森田さんを中心に準備を進めてきました。

室礼は季節の花々のパネルを背にお薄と水点て2種のお点前席を設け、お菓子は練り切りやお干菓子など5種を用意。客席は赤色のクロスを掛けて、中央に赤紫が上品な木樫や可憐なコスモスなどの生け花で初秋を演出。そしてお茶会記とお土産用の吉野拾遺の盛られたお盆が置かれ、白檀の香りが漂うと後はお客様を待つばかり。

青空が広がり夏日となったこの日、水点て用の水鉢に浮かぶ氷は涼しげで、器に水滴が付く頃には涼を求めるお客様で忙しくなりました。抹茶は温冷共に好評で用意した練り切りは早々に品切れ、「とても癒されました」とお土産を手に笑顔で帰られる姿を目にすると喜びも一入です。

今回は「我が家の耐震診断」コーナーも設けましたが、新しい試みの為か相談者は現れず課題が残りました。また、来年に繋げられればと思います。

会場では大船渡の秋刀魚の炭火焼きが振る舞われ大賑わい、防災カフェも56名のお客様にご来場頂きました。

UIFA JAPON 事務局

〒102-0083

東京都千代田区麹町 2-5-4

第2 押田ビル (株)生活構造研究所内

Phone: 03-5275-7861 Fax: 03-5275-7866

E-mail: uifa@liql.co.jp

URL: http://uifa-japon.com

発行 2017年12月25日

THE SECRETARIAT OF UIFA JAPON

c/o LABORATORY FOR INNOVATORS
OF QUANTITY OF LIFE
DAINI-OSHIDA BLDG.
2-5-4, KOUJIMACHI, CHIYODA-KU
TOKYO, JAPAN 〒102-0083PHONE :+81-3-5275-7861
FAX :+81-3-5275-7866
URL :http://uifa-japon.com

被災地通信 (18)

災害王国日本、どうしよう

Report from the Disaster Area (18)

岩井 紘子

IWAI Hiroko

東日本大震災から早6年半、インフラの復旧や住宅建設など大規模なハード事業がほぼピークを過ぎた。これからは震災で傷ついた地域コミュニティの再構築とか新たに生まれた町での新コミュニティ構築が課題という。お年寄りの孤独や家庭環境変化による格差社会など新たな問題が数多く顕在している。

いま私達に出来る支援について考えるべく UIFA としての活動部隊「災害復興見守りチーム」がある。熊本県御船町や岩手県岩泉町への更なる支援活動を模索するも、復興に伴う財政は、土地開発、インフラ整備等行政主導問題で精一杯。自治体などからの呼びかけに引き出すか次第なのです。

過日、法務省委託事業、人権シンポジウム「震災と子どもの人権」を聞いた。福島や東北出身を口に出せないという現実。被災地から避難されている子どもたちへのいじめなど、被災地に対する無理解から生じる差別やいじめ等の問題が今なお生じているとの事。別な面での災害の怖さ。

各地を襲って来る台風や豪雨による災害。避難所、仮設、復旧、復興の繰り返しが始まる。確実に東日本大震災被災地様相は一変し、市民生活も落ち着きつつある。その後の災害被災地に対し、UIFA の極小復興住宅平面図集は住まいのコアとなるもので、被災者の住宅再建に役立つ筈。広報、啓蒙を図り、支援に結びつけたいと思う。



支援客で賑わう南三陸町さんさん商店街。キラキラ井が人気



しかし、その商店街周辺はまだ工事風景が広がる (写真: 岩井紘子)

■役員会報告

2017年度第3回9月22日

2017年度総会及び記念講演会報告 全国まちづくり会議にだれフォトチーム選出され大賞にむけプレゼ準備 熊本・御船町および岩泉町住まいづくり・相談会準備 第67回海外交流の会準備 横網公園防災カフェ開催報告 会員の折込み広報を有料で実施決定 この指とまれ豊洲報告 NL107号発行

2017年度第4回11月17日

松川淳子さん本発刊および国土交通大臣表彰 第67回海外交流の会榎野氏講演会報告 第68回海外交流の会準備 だれフォトチーム優秀まちづくり賞受賞 熊本・御船町および岩泉町住まいづくり・相談会準備 復興住宅プラン募集 法末モバイルキッチン in 神楽坂報告

法末モバイルキッチン in 神楽坂

Hossue Mobile Kitchen in Kagurazaka

森田 美紀

MORITA Miki

久しぶりに法末の「とれとれのおいしいお野菜」をいただけるとのことで、神楽坂にルンルン気分で行きました。参加者は、稲垣さんご夫妻、宮崎さんご夫妻、宮本さん、森田の6人。斉藤先生とお会いするのは、5月の法末のモバイルキッチン以来。先生のご主人さまがサーブしてくださいました。

今回のお野菜は大橋昭司さんに送っていただいたものだそうです。前菜のかぼちゃのスープはとてもきれいなオレンジ色で、水菜のサラダの内側には梨がかくれんぼしていました。

次は「ホタテのグリル 蒸しカブを添えて」ホタテは強火でさっと焼いて、中はレア。しっとりして美味しかった。お肉は「豚肩ロースのブレゼ」オーブンで2.5時間、トマトソースで柔らかく煮込んだお肉に、何と「神楽南蛮のペースト」が爽やかな辛みを加えて美味しかったこと…。

実は今年の5月に法末に行った帰り、神楽南蛮の苗を2つ購入し育ててみました。とても美味しく、実り豊かな素晴らしいものになりました。今はほとんど赤くなっているの、これで作るとピンク色のきれいなペーストができるのでは。挑戦してみようと思っています。

デザートは洋ナシのポアレ+マスカルポーネクリームとアイスクリーム。どれもすばらしかったです。

帰りに神楽坂の宮崎さんのお宅に宮本さんとうかがって、暗くなるまでいろいろお話しを聞きました。おいしい佐渡の柿も、一日おいしく、楽しく過ごしました。



東京で収穫した神楽南蛮ほかの野菜 (写真: 森田美紀)

■編集後記

不思議な力に促されるように、水辺の活動にのめり込んでいる私(須永) / 支援が連携となり地元人の受賞の嬉しさが地域の元気につながりますように(渡邊) / 歩く人がいない北陸の街、車社会? 魅力欠如? 悩ましい現実と向かい合う(井出) / 運慶22作品に出会える特別展「運慶」。800年の時空を超え、静寂の中に躍動感ある、運慶独自の「仏像の機微」に浸った(御船) / 師でなくても走り回る師走来る(宮本) / 植物をふやして広げるフレンドシップグリーン活動中。皆の経験が教科書です(飯田) / 高知の林雅子設計海のギャラリーを見学。50年が経ち登録文化財に申請中(薄井)